

# MARINE PRESS

ISHIKARI BAY NEW PORT NORTHERN PORT DAZZLING THE WORLD FROM ISHIKARI

## 石狩湾新港 港湾計画改訂



2015 9  
Vol.42

石狩湾新港管理組合  
北海道石狩市新港南2-725-1  
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666  
<http://www.ishikari-bay-newport.jp>  
<http://www.facebook.com/ishikari.port>

平成40年代前半を目標年次とする  
石狩湾新港港湾計画を、  
平成27年6月29日に、  
国の交通政策審議会  
第60回港湾分科会の議を経て、  
同年7月6日に改訂しました。

将来  
Ishikari Bay New Port

石狩湾新港は、東アジア地域や極東ロシア地域と札幌圏を結ぶ国際海上輸送拠点としての役割や、農水産品をはじめとする「北海道の食」を中心とした国内海上輸送拠点としての役割などが期待されています。

近年、背後地域の企業集積に伴い、増加するコンテナ貨物の取扱機能強化が求められています。ほか、札幌圏に立地する企業の競争力を支えるため、バルク貨物船の大型化に対応した海上輸送機能の強化などが求められています。

### 改訂のポイント

- 水深12m岸壁の整備
- コンテナヤード拡張

### 平成40年代前半における取扱貨物量

外 貿 Foreign trade cargo	900万トン	9.00 million tons
内 貿 Domestic cargo	490万トン	4.90 million tons
合 計 Total	1,390万トン	13.90 million tons

### 改訂の背景

## 洋上風力発電建設へ

8月27日、石狩湾新港港湾区域内での洋上風力発電の事業予定者に、(株)グリーンパワーインベストメントを代表とする企業グループが決定しました。

設置場所は、北防波堤外側の五百ヘクタールで、10万キロワット規模の発電所の建設を計画しており、平成29年夏頃に着工、平成32年春頃に運転開始を予定しています。

洋上風力発電の設置により、低炭素社会に向けた再生可能エネルギー源の利活用が図られるほか、非常時の電力を確保し、港湾機能や経済活動の早期復旧を図ることなどが期待されています。



機械は、3台体制となり、貨物の処理能力が大幅に向上升し、荷役作業が円滑に行われます。

## 新たにリーチスタッカー導入

8月3日、本港で港湾運送業務などを行っている石狩湾新港サービス(株)が、新たに「リーチスタッカーカー」を導入しました。これにより、コンテナターミナルの荷役機

を新たに増設(現状90口)し、蔵置能力を拡大するなど、安全で効率的な物流機能の確保を図っていきます。

## コンテナヤード拡張

増加するコンテナ貨物需要に対応するため、今年度より、ヤードの拡張工事に着手しました。

昨年、コンテナ取扱個数は、4万7千TEUを超えて、4年連続で過去最高を記録する一方で、ヤードの狭隘化などの非効率な利用形態の解消が求められてきました。今回の拡張で、リーファープラグ60口

を新たに増設(現状90口)し、蔵置能力を拡大するなど、安全で効率的な物流機能の確保を図っていきます。

## 石狩湾新港に 国内定期航路を

北海道物流の最適化に向けて

7月21日、石狩商工会議所など石狩湾新港に寄せられる要請の中に、国内定期航路の誘致を希望する企業などの声が多数ありました。この背景には、北海道の国内定期航路が太平洋側に偏っていること、また、近年、陸送費が高騰していることなどがあります。こ

のため、札幌市中心部から約15キロに位置する本港が、北海道内の国内輸送拠点の一つとなり、効率的な輸送手段を確立することが求められています。

さらに、災害時に備えた強靭な物流ネットワークを構築するため、太平洋側の代替機能として、日本海側の輸送ルートを強化すべきという声が広がっていることも、今回の期成会設立の動きにつながっています。

北海道の経済は、札幌を中心とした圏域に集中しており、本港に国内定期航路が就航されれば、道内物流、ひいては道内経済において大きな効果が発現されることから、その期待が高っています。

石狩湾新港は、昨年、国際貿易港として開港2周年を迎えました。他港に比べ若い港ではありますが、札幌圏の海の玄関口である本港の地理的優位性と高い港湾機能が徐々に評価されてきたことにより、取扱貨物量と外貿コンテナ取扱個数、貿易額は、いずれも過去最高を記録し、今後も着実な成長が見込まれるなど、日本海側の物流拠点として、さらなる可能性を有する港だと考えています。

近年では、北海道初のLNG輸入基地やLNG火力発電所の立地が相次ぐほか、洋上風力発電のプロジェクトが動き出すなど、札幌圏のみならず北海道全域のエネルギー供給拠点としての機能も高まっています。

就任のご挨拶  
石狩湾新港管理組合  
専任副管理者  
**小林亘**



Wataru Kobayashi

昭和58年、北海道に入庁、建設部空港港湾局物流港湾課物流担当課長、総合政策部交通政策局次長などを経て、平成27年6月より現職。

本年7月には、札幌・石狩の両経済界が中心となり、国内定期航路誘致期成会が発足されるなど、当組合では、北海道経済の一層の活性化に資するよう、利用者のニーズに応えた港湾施設の拡充を図り、より利用しやすい港づくりを積極的に進めて参ります。

# 石狩湾新港 ポートシティ開発の概要

目標年次 平成40年代前半



## 東地区 🚢

水深12m 岸壁1バース 延長240m  
埠頭用地12ha

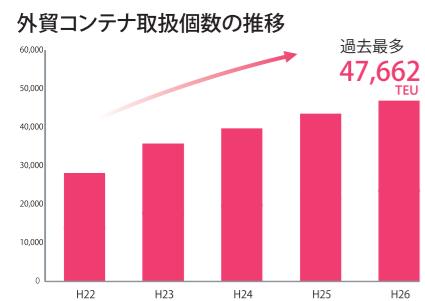
リサイクル貨物輸送の効率化を図るため、新たに岸壁及び埠頭用地を計画。



## 西地区 🚢

水深12m 岸壁1バース 延長240m

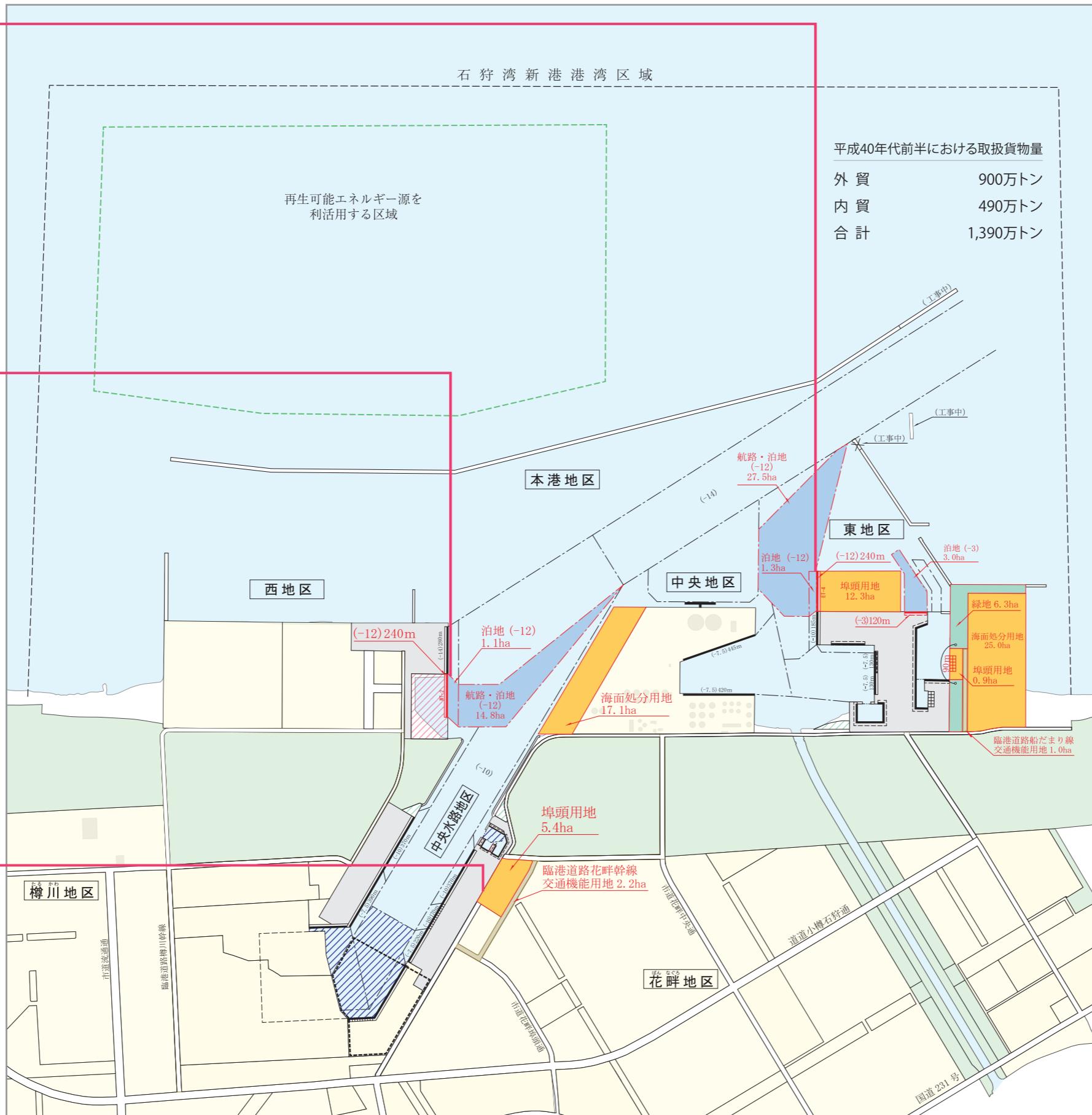
バイオマス発電燃料のパームヤシ殻などのバルク貨物に対応するとともに、札幌圏の移入基地として増加が見込まれる石灰石などの大型船による効率的な輸送を図るため、新たな岸壁を計画。



## 花畔地区 🚢

埠頭用地11ha (うち既設6ha)

コンテナ貨物需要に対応し、荷役の効率化を図るため、コンテナヤードを拡張・再編。



## 港湾計画の方針

札幌圏を核とする日本海側の流通拠点港湾としての機能強化

- ・対岸諸国等の経済発展の活力を取り込むため、外貿ユニットロード機能の強化を図り、物流の効率化等に寄与する。
- ・企業の競争力を支えるため、バルク貨物船の大型化に対応し、輸送コストの低減を図る。
- ・港内に点在するリサイクル貨物の集約化等に対応するため、埠頭機能の再編を図る。
- ・背後地域や企業の要請に対応し、内貿ユニットロード機能を強化し、北海道日本海側における国内物流の活性化に寄与する。
- ・船舶の物資補給等の利用実態を踏まえ、既存施設の計画的な維持管理に配慮しつつ、港湾施設の機能転換を図る。

地域的特性を活かした産業の活性化を支える機能の強化

- ・LNGや再生可能エネルギー等の北海道を代表するエネルギー供給拠点として、多種多様なエネルギーの活用を推進する。
- ・石狩湾新港地域内の冷凍冷蔵倉庫群等により、国内外の食料輸送の拠点化を推進する。
- ・臨海部活性化のため、新たな産業の立地を促進し、地域経済の活性化に寄与する。

環境との共生・循環型社会の形成

- ・アジア諸国との更なる静脈物流ネットワークの構築を目指し、循環型社会の形成に寄与する。
- ・港湾活動における低炭素化の取組に向けた再生可能エネルギー源の利活用等に寄与するため、港湾の整備や管理運営に支障を生じない形で、風力発電施設の導入を図る。

防災機能の強化及び復旧・復興体制の構築

- ・物流機能の継続や早期復旧に向けた港湾の事業継続計画(港湾BCP)の策定に取り組み、背後地域等と一緒に、自然災害のリスクに対応する。
- ・大規模災害発生時において、札幌圏への緊急物資輸送を行うため、耐震性の高い港湾施設を確保し地域の防災力向上を図る。
- ・大規模災害に備え、復旧・復興の広域的な支援ができるよう、体制の構築を図り、安全・安心の確保に貢献する。

賑わいのある港湾空間・交流空間の形成

- ・物流機能と調和した親水空間の確保や海洋性レクリエーション機能の導入を図る。